



衣川 寛介

『初めて鉄を作った人』

播磨風土記、讃容郡に以下のような記載があります。
即ち、鹿を放ちし山を鹿庭山と名づく。
山の四面に十二の谷あり。皆鐵を生すなり。
難波の豊前の朝廷に始めてたてまつりき。
見頭しし人は別部の犬、其の孫等奉り初めき。

この記事から播磨地方では600年ごろに『別部の犬』が製鉄を始め、650年頃に朝廷に献納したことが判ります。聖徳太子が活躍した飛鳥時代の初期、鉄は重要な資材だったのでしょう。

『世界最古の鉄器』大きな見出しの記事が朝日新聞2009年3月26日に掲載されました。中近東文化センター(東京都三鷹市)が調査を続けているトルコのカマン・カレホユック遺跡で、紀元前2000頃の地層から、小刀の一部と見られる鉄器1点、鉄滓(鉄を作るときのカス)、鉄分を含んだ石が発見された。これは人工の鉄が通説よりも500年も早い段階で生産されていた証拠です。

初めての製鉄から2600年を経て日本の播磨地方に、その技術が伝わって来た。それはどんな経路だったのだろうか？シルクロードかな？海上のルートを通ったのか？技術の伝搬には物だけでなく人の移動が伴ったにちがいない。私はそう考えています。日本へは朝鮮半島からと思われるが、誰が伝えたのだろうか。朝鮮半島へは、どこから、誰が？？こう考えると古代の技術伝搬に夢が広がります。

金・銀・銅は天然に産出します、自然金・自然銀・自然銅などとして。しかし、鉄は自然界には、ほとんど存在しません。宇宙から降ってきた隕鉄(いんてつ)は人工の鉄とは成分や組織が全く異なったもので、製鉄のお手本とすることは出来ません。こんな中、どんな石を原料として、どんな方法で(炉の形やふいごの様式など)鉄を作ったのか疑問が広がるばかりです。私は少しでも古代の技術者の気持ちになって自然や鉄を見てみたいと思っています。



『風土記の地図 讃容郡』

『世界最古の鉄』



播磨風土記の成立

『続日本紀』の和銅6年(713年)に報告書を各国に提出せよと命じたことが記されています。播磨風土記は、その命令により713~715年ごろに成立したと推測されています。

『別部の犬』

備前を本拠地とする和氣氏の一族か和氣氏の配下の技術集団だと考えています。

『世界最古の鉄』記事は以下のホームページにアップしました。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/topic/09032901.htm>

3月号『夢通信』の記事に一部間違いがありました。

「ジルコニウム」「ストロマトライト」訂正すると共にご指摘頂いた兵庫県機械金属工業技術支援センター高橋所長に感謝！！感謝！！

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

「鉄のふしぎ博物館」 7月開館予定